

技術・家庭科学習指導案

日 時	平成23年11月11日（金）1校時
会 場	1年1組教室（南校舎4階）
生 徒	1年1組（男16名 女20名 計36名）
授業者	佐々木 晴美

- 1 題 材 名 快適に住まう
「健康で快適な室内環境を整えよう」

2 単元について

（1）学習者観

- ・生徒は、学習意欲が旺盛で、住まいに関する学習にも高い関心を持っている。与えられた課題に対して、個人的な作業でもグループでの話し合いや作業などの活動でも意欲的に取り組むことができる。
- ・各家庭での住まいに関する日常の仕事については、あまり関わっていない生徒がほとんどである。自分の部屋を自分で掃除する生徒も多いが、親に掃除してもらっている生徒も少なくない。自分の部屋以外については、掃除する機会のない生徒がほとんどである。
- ・住まいのはたらきについては、小学校の家庭科や中学校の社会でも取り扱われている内容である。

（2）学習材観

- ・心身の健康や自己実現のためには、社会生活だけではなく、家庭生活の中においても安心できる自己形成の場が必要である。そのためには、家族を意識した住まい方について考えることが必要である。
- ・家族が健康的に住まうためには、室内環境を整えることが大切である。しかし、生徒の実態を見ると、その日常生活の快適さに慣れてしまい、自ら進んで快適な環境を作ろうとしていないのが現状である。普段何気なく過ごしている環境が快適であることを認識させ、快適な条件とその整え方について考えさせることは、よりよい生活に向けて主体的に取り組んでいくことができる生徒を育成するために有効であると考えられる。
- ・室内環境の整え方について、日常生活の中で何気なく快適に過ごしている事柄を、生活概念や生活経験をもとに言葉に表現させ、結果や理由がはっきりした形になって表れることで、その価値を深く認識させることができ、家庭での実践化につながっていくと考える。

（3）学習指導観

- ・「住まいのはたらき」では、生徒の思考力を高めさせるために「自分が家を建てる場合、どこにどんな家を建てるか？」という視点で家の外観から考えさせ始めた。生徒たちは、家族の人数や階数、洋風や和風などの観点から考え始めるが、途中で家と気候風土との関連づけについての具体的な視点を与えた事で考えを深めていた。
- ・「家族と共に住まう」では、「5人家族のための間取りを考える」という視点から授業を始めた。生徒は、まず必要な空間から配置し、その次にそれぞれの部屋を考えていた。生徒の思考の段階を見ながら「家族それぞれの気持ち」「間取りのサンプル」を提示することで、家族それぞれ気持ちについて考えを深めたり、LDKなどの基本用語を確認したりしながら学習を深めた。
- ・健康な住まいとは、住まい自身が健康であることを指し、居住者は住まいを健康にするための管理や手入れが必要である。快適に住むことについても、居住者の願いと工夫が必要とされる。住まいについてどのような視点で工夫するのか具体的な条件を挙げて考えさせ、お互いの生活の工夫を交流したり意見を交流したりすることで、家庭での実践化をめざしたい。
- ・今後の環境に配慮した住まい方として、「自然と共に住まう」という視点で、自然の脅威を防ぐと共に、自然エネルギーの恵みを利用した住まい作りについても考えさせたい。
- ・住まいの学習全体を通して、これからの住まい方について具体的な実践化につながる提案をさせたい。

（4）研究とのかかわり

- ・「問い-追究-学び」の学びのサイクルにおいて、日常生活の中で何気なく過ごしている内容について、視点を具体化した発問をし、生徒の思考を整理させ、言葉に表現させることで、よりよい生活者としての学びを追究させていきたい。
- ・生徒のライフスタイルは多様化していることから、それぞれの価値観や生活概念を「協同の場」において擦り合わせをさせ、「表現と共有」の場を設定することで、学びを深めさせていきたい。

3 単元の目標と評価規準

学 習 目 標	評 価 規 準			
	生活や技術への関 心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につ いての知識・理解
住まいの機能を知り、自然条件やライフスタイルにあった住まい方について考える。	住まいのはたらきを自分の生活と重ねて考えようとする。			住居の基本的な機能について説明できる。
家族構成や暮らし方に応じた住まいの空間を考え、住みやすくするための工夫を考える。	家族構成や暮らし方に応じて求められる住まいの条件について考えようとする。	家族構成や暮らし方に応じて求められる住まいの条件について工夫できる。		
汚れに応じた清掃と手入れの方法を理解する。	住まいの汚れについて調べ、その汚れにあった掃除の仕方について考えようとする。		住まいの汚れに応じた手入れができる。	用具や洗剤等の安全で適切な取り扱いについて理解し、説明できる。
様々な家族構成に対応した住まいの安全を考える。		安全で快適な住まい方を知り、工夫できる。		家庭内での事故の原因を説明できる。
室内環境を快適にするための条件や方法について工夫	健康で快適な室内環境について関心をもち、実践しようとする。	快適な室内環境の整え方について工夫できる。		快適の室内気候の条件がわかり、整え方が理解できる。
既習の学習内容をふまえ、健康で快適に住むためどうしたらよいかを自分なりに考える。	自分の生活の課題として考え、学習した内容を生活に生かそうとする。	よりよい住まい方について、工夫して提案できる。		

4 学習指導計画（全 8 時間）

- (1) 住まいのはたらき 1
- (2) 家族と共に住まう 2
 - ① 住まいへの願いを確かめよう (1)
 - ② 住まい方のルールを考えよう (1)
- (3) 健康で快適に住まう 3
 - ① 住まいの健康診断をしよう (1)
 - ② 健康で快適な室内環境を整えよう (1) …… 本時
 - ③ 住まいの安全対策を考えよう (1)
- (4) 自然と共に住まう 1
- (5) よりよい住生活をめざした提案 1

5 本時の指導

(1) 目 標

- ・健康で快適な室内環境にするための整え方を考える。
- ・安全で快適な室内環境の整え方について工夫できる。

(2) 展 開

< 既習の学習 > ①住まいのはたらき ②家族と共に住まう 1、住まいへの願いを確かめよう 2、住まい方へのルールを考えよう ③健康で快適に住まう			
学習活動	学習内容	指導のための工夫	評価の視点・方法
1 共有の課題を把握する。	○住まいに関するアンケートの結果を知る。	○アンケート ・住まいへの満足度	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <共有の課題> 「快適な住まい」って？ </div>			
2 共有の課題を追究する。 ①「快適な住まい」の条件を考える。 ②全体で確認する。	○アンケートの結果を参考にして「快適な住まい」の条件をまとめる。 ・温度 ・湿度 ・気流 ・清潔 ・照明 ・換気 ・採光 ・整理整頓	○快適な室内環境 温度 22～25度 湿度 50% 気流	
3 ジャンプの課題を把握する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <ジャンプの課題> めざせ快適、よりよい生活！ </div>		
①課題を追究する。	○よりよく住むための工夫を考える。 <キーワード> ①暖かい住まい 涼しい住まい ②安全な住まい	○アンケート ・住まいについて困っている事 <キーワード> ①暖房器具、採光、暖色 通風、寒色、冷房器具 ②マット、火災報知器 手すり、椅子、段差	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 「関・意・態」 健康で快適な室内環境について関心をもち、実践しようとする。 <観察> </div>
②全体で確認する。	○条件に対する発表を聞き、考えを深める。	○①～について、生徒の考え+アンケート<我が家の工夫>+知恵袋的情報を付与する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 「工夫・創造」 快適な室内環境の整え方について工夫できる。 <ノート記述> </div>
③気づいた事、考えた事をまとめる。	○自分の住まいを振り返り、条件を絞って実践したいことをまとめる。	○わかりやすいように、視聴覚機器を活用する。	
<次時の学習> ・住まいの安全対策を考えよう (幼児、高齢者)			